

上信越

坪川・小田倉沢～津室沢下降

メンバー:三井(L)、志満

遡行日:12年9月9日

天気が芳しくなく一週ずらした計画だったが、週末の予報はまたも芳しくない。が、幸い当日の天気はいいほうに外れたようで、夜明けともに青空が広がっていった。

前日の深夜に入渓点まで入ったのだが、車を止めるスペースもテントを張る空き地もなく、一旦集落近くまで下り林道の小広い箇所まで前泊。

翌朝入渓点まで上がってみると廃屋があり、東京ナンバーの車が止まっていて人がいる。

釣師かと思ったが話してみると廃屋の主に畑を借りて何やら作っているらしい。わざわざこんなところで、と思うが色んな人がいるものだ。

その人から聞いた駐車場所に車を止め山行がスタートする。

植林地を下り、広い河原となっている坪川を渡ると正面に流れこんでいる(出合は伏流だが)のが「小田倉沢」だ。

暫く進むと水が流れ出てきてナメの沢床を辿るようになる。

8mの直瀑を右から巻くとゴルジュ帯となり、その奥に現れるのが「大ゼン」と呼ばれる20mのナメ滝。巾広のなかなかのものだが、水流の右にトラロープが垂れている。別に必要はないが多少又めているので使わせてもらう。

沢はゴルジュ帯となり、その中に小滝が落ちているが沢の水量も少ないので問題はなく、快適に通過できる。

すると、前方に釣師の姿が。

実は空き地に車を止めた時、既に1台の車が止まっていて、どうも釣師のものだな、と思ったのだがやっぱりね。

仕方がない。その釣師が竿を上げたところで声を掛ける。「釣れますか。」

驚いた顔の釣師にスマイルトークで話しかけ、最後に「すみません。静岡から来ていて時間がかかるので先行させて貰えますか。」

仕方なさそうな顔をした釣師、「なるべく荒らさないようにお願いします。」

これでOK。先に進む。

右に残置ロープのある8mの滝は寧ろ左からが快適に登れる。

通過可能なゴルジュが続く。小滝を数本越えるとまたゴルジュ。

この沢はこじんまりとした沢だが変化があり遡行者を飽きさせない。

10mの滝を左から直登するとその先に直登は梃子ずりそうな10m滝。

無理せず右から巻くと沢は平瀬となり、兩岸も広がってきて源頭状の雰囲気となる。右岸の小尾根のコルが左前方に望め、小田倉沢もここまで。

小休止してからそのコルを目指す。倒木の散乱した緩い斜面を50mほど高度を上げればあっさりとコルに達する。

そのままコルの反対側に下っていく。

「津室沢」はガイド集に記されているように傾斜の緩い何もない沢で、ただ、件のガイド集には源頭部に足尾銅山が採掘されていた頃の住居跡がある、と載っていたのだがそれらしいものは見当たらなかった。

2時間ほど下り、沢床がナメ状となると3段45m、といわれる大滝が行く手を遮る。「津室沢」の出会いにある2本の大滝の上流の滝だ。(下りてから見ると実に優美で見応えのある滝だ。)

ここまで全く順調に遡行してきて「これなら早く帰れるね。」などと志満さんと話していたのだが、ここから思いがけず梃子ずる事態が連続して現れるとは…。

右岸の岩にボルトが3本、残置スリングが束ねられている。それを支点に上段を懸垂したのだがロープの末端は中段の中ほどまでにしか届いていない。右岸側に頼りなさそうな灌木がポツンポツンと生えて、残置のトラロープなどもだらしなく垂れているが滝はスラップのつるつとした滝で足元が安定しておらず、ここでロープをかけかえるのはあまり芳しくない。

迷ったが安全第一。登り返して右岸を高巻く事にした。

右岸の尾根に取り付き、懸垂したのはいいのだが何を勘違いしたのか上段の落ち口に懸垂してしまい、高巻きのし直しをするハメに。

再度高巻きをして灌木にすがって下ったが最後の5.6mが切れている。

メインロープをだす手間を惜しんでお助けロープで下ろうとし逆に手間取る。(ほんと、何やってんだらうね。)

沢床に戻り、いよいよ最後の(入渓なら最初の)3段25mの滝。

上段を懸垂し、中段の滝は右岸の上方から伐採時のものか、ワイヤーロープが垂れていてそれに残置のスリングがついていてどうもこれで懸垂するって事らしい。

今まで何百回も懸垂したがこんな懸垂支点は始めてだ。

僕が懸垂して下に降りたのだが、ロープが落ち口から離れた状態で戻らない。どうもワイヤーが途中の岩に引っかかったらしい。これでは志満さんが懸垂できない。

結局僕が登り返し、ワイヤーを戻して漸く懸垂できたが、何が起きるか分からないものだ。

ともかく津室沢の出会いにでて無事終了。やれやれだ。ドッと疲れが出た。

後は車まで林道を歩くだけ、と思ったらオマケの出来事がもう一つ。

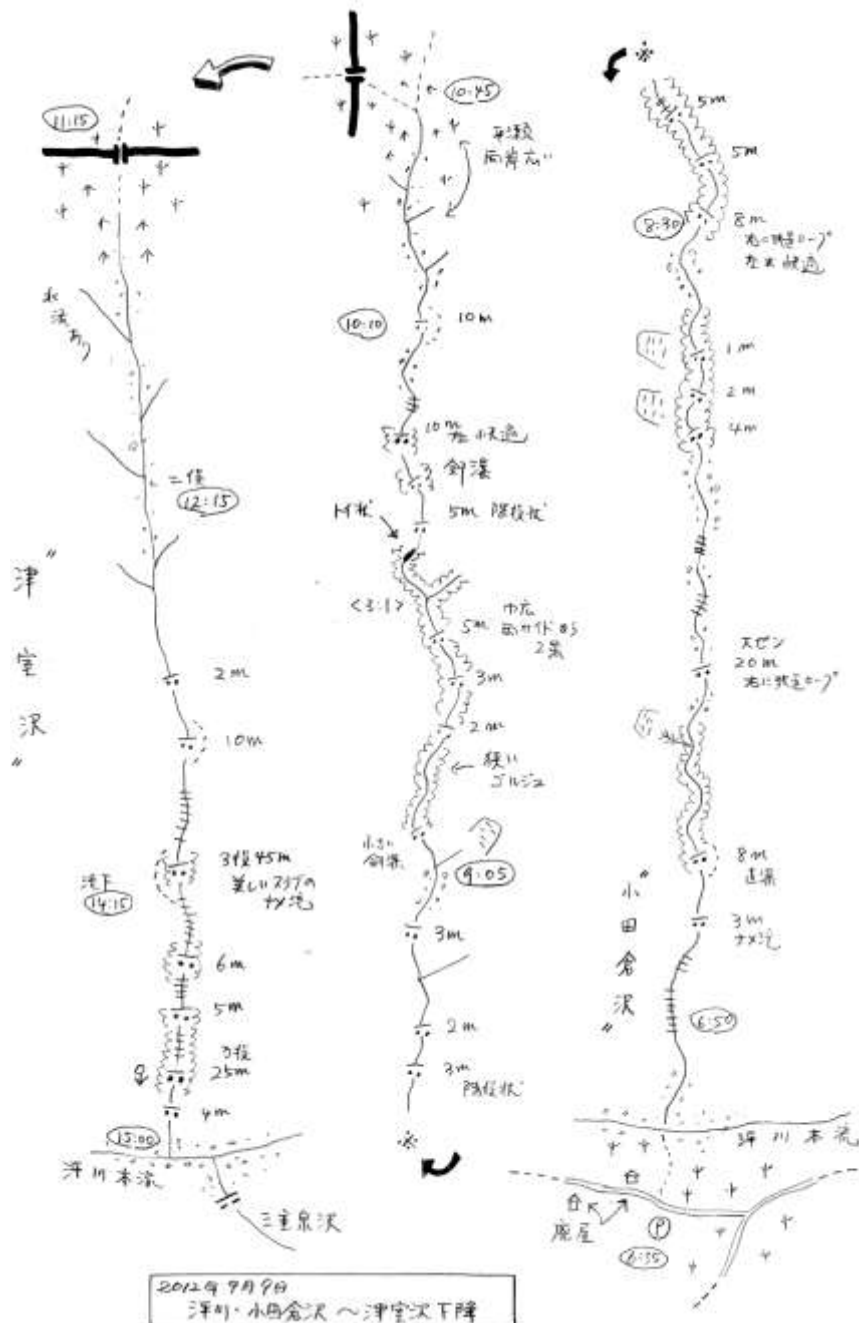
平川の本流を渡って林道に上がろうとしたのだが地形図で一番楽に上られる所のはずだったのだがかなり急な斜面で、上っても何故か林道に出ない。それどころか壁まで出てきた。

こんなハズはない。止むおえず元の所に下り、別な箇所から林道に上がった。僕らが登ろうとしたところは林道の小さなトンネルのところ、そのまま登っていったら厄介な事になっていたかもね。

終盤のそんなこんなで余計な疲労感が溜り、林道歩きがしんどい。1時間少々の林道歩きで車に戻った。

「小田倉沢」は小粒ながらナメあり、ゴルジュあり、登れる滝あり、で変化があって結構楽しめる。少し遠いが日帰りの沢としてはいいと思う。

ただ、「津室沢」を下降するなら40m位のロープを2本用意したほうがいい。今回みたいな余計な手間をかけずにさっさと下れると思います。



2012年7月9日
河川・小田倉沢～津室沢下降